

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 27 No 6

310号

令和 1年 6月12日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

性教育とむし歯予防プロジェクト 院長

5月24日(金)と6月7日(金)午後と続けざまにお休みをいただきました。ご迷惑をおかけしたお詫びの印として、恒例の旅行記としたいところですが、発表してきた本邦初仙台発の取り組みについて紹介します。もちろん旅行ネタも入ります。

5月25～26日は新潟で開催された、指定都市学校保健協議会に参加してきました。この会は政令指定都市の医師会の学校保健担当者が集まる会で、毎年場所を変えて開催されます。普通は発表を聞きに行くのですが、今回は発表することになりました。課題別協議会第1分科会「生涯にわたり積極的に心身の健康の保持

増進に取り組む子どもを育てる健康教育」で、「小学4年生への「命の大切さ」を伝える性教育～実践・評価・展開～」を発表してきました。この取り組みは校医を務める小松島小学校で11年前から始まったものです。

最初は4年生体育科授業「育ちゆく体とわたし」を担当とのTeam teachingで行ったのが始まりでした。その後4年生PTA学年行事『親子で学ぼう「命のつながり」』に受け継がれ、現在は外部講師による授業として行っています。授業は2部構成で、第1部は保護者と児童を対象にした「赤ちゃんはどこからくるの?」、第2部は保護者講話で「悲しい出来事」です。第一部は命の大切さを伝えて、自分を大切に、他人を大切にすることによって主眼を置いています。「みんなはどうやって生まれてきたの?」の問いに対する「コウノトリが運んできた」・「卵から生まれた」・「お母さんからうまれた」の三択クイズから始まり、言葉のキャッチボールで笑いを生みながら、570gで生まれた超未熟児がお父さんになって命を繋いで行くことを中心に、命のつながり、赤ちゃんの持つ素晴らしい力、命を繋ぐための体と心の変化を解説しています。そして、「命を大切にすることは命のことを考えること」であり、「自分らしさを大切に」とまとめています。さらに取り組み後10年を経過して、小児科医であるだけでなく教師でもあるとの思いから、卒業時にアンケートを行い評価と行動変容について検討しました。さらに個人的対応の限界と成長の時間軸に合わせての対応の必要性から、文科省学校保健総合事業を受諾して、小児科医だけでなく産婦人科医、助産師、さらにはPTAを巻き込んで学校保健協議会を立ち上げて新しい取り組みを行っています。

性教育というのは統一された形で行われているのではなく、国、教育委員会、学校、さらには地域によって、

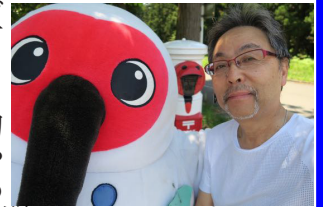
その対応に差があるのが現実です。文科省では性教育という言葉は学習指導要領にないため、「性に関する指導」としているのでも明らかです。「命の大切さ」を伝えることは、いじめや虐待、ひいては自死を防ぐために役立つの思いから活動を展開しているのです。

6月8～9日は京都で開催された、日本小児科医学会総会フォーラムに参加してきました。この会は小児科医が数多く集まる全国的な学会の1つです。一般演題として「仙台小児科医学会のむし歯予防の取り組みと3年後の評価ー3歳児カリエスフリー85プロジェクトー」を発表してきました。「3歳児カリエスフリー85プロジェクト」は、むし歯有病率が高い仙台市のむし歯予防事業の1つで2022年までに、3歳児のむし歯のない率を85%以上にするというプロジェクトです。H27年から始まったので知ってる人も多いかもしれませんが、むし歯予防を小児科医療機関による乳児健診を入り口とするものです。8～9ヶ月乳児健診時に、「☆せんだい☆でんたるノート」と小児科医学会作成のリーフレットを配布し、むし歯予防の啓発とともに、口腔内ケアとフッ化物塗布のためかかりつけ歯科医へつなぐことを目的としています。開始後3年、8～9ヶ月健診児が3歳になる子を見計らって調査を行いました。かかりつけ歯科医のある児、フッ化物塗布を受けた児は増加し、むし歯のない3歳児は85%を超えて目標を4年前倒しに達成できました。この取り組みは、「むし歯は生活習慣が大きく関わるものであり、虐待評価の指標ともなり得ることから、むし歯予防には小児科医の関わり合いが重要である」との小児科医の思いから始まったものなのです。その証として、行政担当者から「先生がいなかったらこのプロジェクトが走り出せなかった」との評価を得たのでした。

ここからはちょっとだけの旅行記です。指定都市学校保健協議会の前日は初めて佐渡に渡ってみました。トッキッキとツーショットを撮ることもできたし、宿泊したホテルからの日本海に沈む夕日はとても綺麗でした。京都ではこれも初めてでしたが、二条城に行ってきました。大政奉還の歴史に触れただけでなく、フォーラムでは代議員会、HP委員会、紹介した一般演題、さらには教育セミナーの座長、患者会ブースめぐりなどの後の観光で足が棒のようになってしまいました。

紹介した2つの取り組みとも、全国でも例を見ないものです。このような本邦初、そして仙台発の取り組みの中心が院長であることを理解してもらえれば幸いです。そんな理由で出張も増え、休診も多くなってしまっています。こうして安心して出かけるのも、皆さんの理解と協力があるからです。

今回も、ありがとうございます。



6月のお知らせ

- ・東北大学医学部学生実習
18日(火)～21日(金)
ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします
- ・午後休診
26日(水) 県医師会代議員会
- ・栄養育児相談
5・19日(水) 13:30～
栄養士担当



『子ども・子育て支援の都市仙台！ ネウボラを仙台に！！』

読者の広場

先月は2通のメールとFBに3件のメッセージをいただきました。

まずは大和町の吉田さんからです。「いつもお世話になっております。先生、GWの日も先週末もありがとうございました。溶連菌の尿検査ついては、お話を聞いていただいて、ホッとしました。「遠くから来てるのに、これだけじゃもつたいないから、相談ないの？」って…かわむら先生信者の私には、とても嬉しかったです(^ v ^)これだけ通ってれば、覚えていただけてますよね(〃▽〃)(笑)実は、耳鼻科で滲出性中耳炎と言われて、けっこうショックでした。知ってはいたけど、目に見えないところなので、娘が聞こえにくかったのはかわいそうだったなあ。いろいろ反省したりして。でも、先生のお話を聞いて、そんなに重く考えなくても大丈夫なんだと安心できました。私が待合室に戻ると、患者さんが増えていたようで申し訳なかったですが、本当にありがとうございました。娘たちは病院ごっこをすると、なんだかどこかで聞いたことある口調や手つきです☆先生にお世話になっているので、娘たちもすっかり信者ですよ(笑)。またお世話になります！ありがとうございました☆。



患者さんが思っている以上に、皆さんの背景まで理解しているつもりです。30分以上もかけて、何軒かの小児科を通り越して通って行くのはなかなかできないことです。それだけ当院を頼りにしている証拠です。「お母さんの不安・心配の解消」を理念としているので、どんなことでも聞いて安心してもらいたいと思っています。でもなかなか患者さんからは聞きにくいものなのです。INET 医療相談を通して、患者さんが医師に聞くことには勇気がいるということを知りました。今回は空いていることもあり、こちらから誘い水を剥けたのでした。病院へ行って薬をもらうことはどこでも同じです。薬袋に安心が入っているかどうか重要です。遠い近いは関係ありません。なんでも聞いて、安心をもらって帰ってください。でも大混雑の時には多少遠慮してくださいね(笑)

話の続きとなるエピソードを1つ紹介しておきます。先ほども書いたように医療相談を受けていますが、かかりつけの患者さんから「日焼け止めに」に関する相談がありました。さて、皆さんはどう考えるのでしょうか。

1歳10か月女児。相談：これからの季節、こどもの日焼け対策について質問させていただきます。外出時、顔や体など肌の露出部分に日焼け止めを塗ることは必須でしょうか？極力炎天下の外出は控えていますが、買い物に行く際などどうしても午前中の日が高い時間帯に外出せざるを得ない日もあります。娘は色白で、日焼けすると頬など赤みが出るように思います。以前に比べ紫外線量が増えていると言われていたり、赤ちゃんの頃から日焼け止めを塗ることが当たり前という風潮も気になり、どうすべきか悩んでいます。

感想・コメント：以前風邪で受診した際に、赤ちゃんの肌に毎日ベビーローションを塗る必要があるのか相談させていただいたことがあります。時代の風潮とは反対に、不必要なものを使用する必要はないと教えていただき、とても安心しました。大変お忙しいとは存じますが、今回の日焼け止めの使用に関しても、先生の見解を伺えましたら幸いです。

回答：ご返事します。日常生活では、日焼け止めは必要ありません。日光はビタミンD合成のために必要なものです。適度に陽を浴びることは必要なことです。もし紫外線がそんなに害があるものであれば、保育園のお散歩や幼稚園での外遊びも禁止にしなければなりません。日焼け止めを買えない熱帯の貧しい子どもたちは、皆紫外線の害で大変なことになってしまいます。ということで日焼け止めの必要はありません。ただし炎天下で遊ぶ、海や山の紫外線が強い場所で日に当たる場合には状況によって日焼け止めを使うことを考慮してください。そしてお母さんが子供の頃、外で遊ぶときや運動会、遠足などで日焼け止めを使ったかどうか親に聞いてみてください。紫外線がそれほどの害があるなら、プールも運動会、高校野球なんかとっくに禁止されているはずです。常識的な生活の中では、日焼け止めの必要はないでしょう。

追加です。ヒリヒリ痛くなるほどや水ぶくれができる日焼けは防いでください。太陽の恵みという言葉をもう一度思い出してください。時に栄養の偏りと日に当たらない子どもで「くる病」が問題になることがあります。

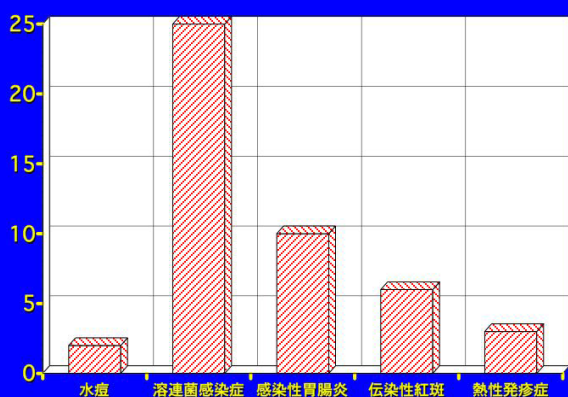
緊急風しん抗体検査事業・第5期風しん定期予防接種(2019年3月15日開始)

対象者は、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性(概ね39~57才)

風しん抗体価陰性を証明できる方。他の方は抗体検査により風しん抗体が不十分な方が定期予防接種の対象となります。抗体検査・予防接種費用は無料で、成人であっても当院で実施可能です。(平成34年3月末日まで)

パートナーだけでなく、周りにいる男性を誘って、社会を守るために検査と予防接種を受けてもらいましょう！！

5月の感染症の集計



F.B ページでも注意喚起しましたが、5月に宮城県で4例の麻疹が発生しました。現時点では2次感染者は出ていません。情報に注意を向けるだけでなく、MRワクチン接種を考えましょう。インフルエンザの話も聞こえてきますが、周辺での流行はありません。

相変わらず溶連菌感染症が多く見られていますが、他に流行している感染症はありません。寒暖差が大きい時期のせいか、喘息や咳ひどいカゼが目立ちます。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は700人を越えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下のQRコードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信としてFacebook ページ、YouTubeにも取り組んでいます。最新情報はFBをどうぞ。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomo-clinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

先月今月と金曜日を含めた連休を2回もいただきご迷惑をおかけしました。医師というのは一生懸命患者さんを診ることが基本ですが、それは当たり前のことです。診療以外にも、小児科医には子どもたちを守るという役割があります。性教育、むし歯予防も大切なものと考えて活動しています。医師会だけでなく、行政や他職種と連携して、子どもたちのいろいろな問題に取り組んでいます。応援よろしく！！



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！